

平成28年度第1回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

平成28年6月17日（金）15:00～17:10

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・浅野幸弘 委員長 ・臼杵政治 委員 ・菅原晴樹 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

- ・平成27年度運用結果及び運用評価について
- ・政策アセットミックスの検証について 等

5. 概要

平成27年度の運用結果及びその評価について、事務局から説明し、報告のとおり了承された。

被保険者ポートフォリオの政策アセットミックスについては、直近の経済動向に基づき検証した結果、検証方法等について引き続き検討すべき点はあるが、リスクが低く効率的であると認められることから緊急に見直す必要はないとされた。

受給権者ポートフォリオの運用について、マイナス金利による年金財政への影響を抑えるため、当面、国内債券に加えて短期資産を活用する案を事務局から説明し、了承された。

また、加入者に対するアンケート調査については、委員の助言を得ながら問の立て方を引き続き検討することとした。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- TOPIX をベンチマークとしている国内株式のパッシブ運用は、準完全法ではなく完全法にしてもよいのではないかと。
- 運用受託機関の評価にあたっては、運用受託機関を訪問して、実際に業務の体制を確認したり、現場で質問するといった評価方法を取り入れてはどうか。
- 政策アセットミックスの検証の前提となる国内株式の期待収益率の導出の方法（金融変数の取り方等）について、より精度をあげるべく引き続き工夫してほしい。
- 政策アセットミックス設定の際の制約条件の置き方については、引き続き検討が必要である。
効率的フロンティアからの乖離がどこまでの範囲であれば、分散効果を勘案して 妥当な範囲にあると認められるのか、基準の整理が必要ではないかと。
- 受給権者ポートフォリオにおいて、購入が認められているものの流動性の観点等から購入を控えている政府保証債や地方債の購入について、引き続き検討をしてはどうか。
- 資金運用に関する加入者へのアンケート調査については、回答者に予断を与えないよう、問いの立て方に配慮するべきである。
また、回答者が直感的に回答を選択できるような工夫をしてはどうか。

以上